

# 中国の“タカラヅカ” 越劇に恋して。

神戸学院大学 人文学部教授  
中山 文  
Fumi Nakayama

## 本

学着自己11年目に長期海外留学のチャンスを得たことでした。1999年のことです。この年はちょうど新中国成立50周年にあたります。首都北京では建国50周年を祝うために中国各地の劇団が上京、毎日選りすぐりの作品が上演されていました。日本では知らなかったのなかつた中国演劇の面白さに魅せられて、私は毎夜の劇場通い。戯曲、話劇とジャンルをこだわらずに片っ端から観劇し、11カ月で253本の作品を見ることができました。もう天国のような毎日！それまで私は中国の今を知るために、小説を読んでいました。でも舞台上に生きる



俳優たちの肉體はもつと立体的に中国と中国人を教え、てくれました。どの作品にも、中国の歴史・文化・風俗がすべて凝縮されてきました。歌に酔い、物語に感動しながら、「ああ、中国語をやつてきてよかったあ」と、心から思いました。この時の経験が現在の私を作ってくれました。一番の財産です。

その中で私は楊小青さんが演出する楊派越劇と出会いました。その舞台の美しさ、描かれる女性のかっこよさと言つたら！一目惚れでした。1937年、日中戦争は始まります。そして、上海には租界を中心にモダニズム溢れる都市文化が隆盛します。それ以前の1900年代初頭、浙江省の農村地帯では男性農民による素朴な草芝居が人気を集めていました。彼らはやがて魔都・上海に進出。紆余曲折を経て40年代には、上海で京劇をしのぐ人気劇種へと成長します。その大きな理由は、無骨な男優からたおやかな女優を起用するというスタイルの転換にありました。今、日本で越劇が紹介される際、しばしば「中国のタカラヅカ」と称されます。原則的に女優ばかりの演劇だからです。

当時、俳優は下賤な職業と考えられていましたが、日本人留学生たちが持ち帰つた話劇（新劇）だけは別格でした。歌わず踊らずセリフだけで行う近代劇は、列強に侵略される母国を救うための愛国的メッセージを民衆に伝える有効な方法として、知識人に流行していたからです。40年代の女子越劇は話劇から演出家制度や台本制度を取り入れました。その越劇改革の中心となったのが袁雪芬という女優さんです。彼女の改革は、演劇改革であると同時に、女性解放運動としても重要な意味をもちました。魑魅魍魎の跋扈する上海芸能界で、貧困からのし上がった女優たちが一致団結して男社会に挑んで行つたのです。人間らしく、自立した、社会的に意義ある存在になりたいという高い意識を持つて。また、越劇の成長過程には、ターニングポイントごとに賢い男性たちとの出会いがありました。その点も、研究者として興味をそそられます。話を戻します。現在は、中国戯曲の翻訳なども手掛けています。幸運なことに、文部科学省学術フロンティア推進事業の一環として、昨年拙訳『カプチーノの味』が神戸と大阪で上演されました。自分の言葉が役者の肉体を通して発せられると、台本の時とはまったく別の力をもつのです。また一昨年は、学生・地域を対象とする本学主催の公演、グリーンフェスティバルの一環で、越劇を日本に招へいするプロデュースの仕事も経験させていただきました。これからもさまざまな形で、新しい中国の社会や生活、人間、特に女性にスポットを当てて、研究し紹介していきたいと思つています。



# 神戸学院大学

- 有瀬キャンパス / 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518  
TEL.078-974-1551 (代表) FAX.078-974-5689
- ポートアイランドキャンパス / 〒650-8586 神戸市中央区港島1-1-3  
TEL.078-974-1551 (代表) FAX.078-974-4102
- 長田キャンパス[法科大学院] / 〒653-0862 神戸市長田区西山町2-3-3  
TEL.078-691-4888 (代表) FAX.078-691-4333

URL <http://www.kobegakuin.ac.jp>

	1年次	2年次	3年次	4年次
法学部/経済学部/経営学部	有瀬キャンパス	有瀬キャンパス	ポートアイランドキャンパス	ポートアイランドキャンパス
薬学部	有瀬キャンパス	有瀬キャンパス	ポートアイランドキャンパス(2~6年次)	有瀬キャンパス
人文学部/総合リハビリテーション学部/栄養学部	有瀬キャンパス	有瀬キャンパス	有瀬キャンパス	有瀬キャンパス
学際教育機構	有瀬キャンパス	有瀬キャンパス	有瀬キャンパス	ポートアイランドキャンパス
防災・社会貢献ユニット*	有瀬キャンパス	有瀬キャンパス	有瀬キャンパス	有瀬キャンパス
スポーツマネジメントユニット	有瀬キャンパス	有瀬キャンパス	有瀬キャンパス	有瀬キャンパス

※文部科学省現代GP(現代的教育ニーズ取組支援プログラム)採択